

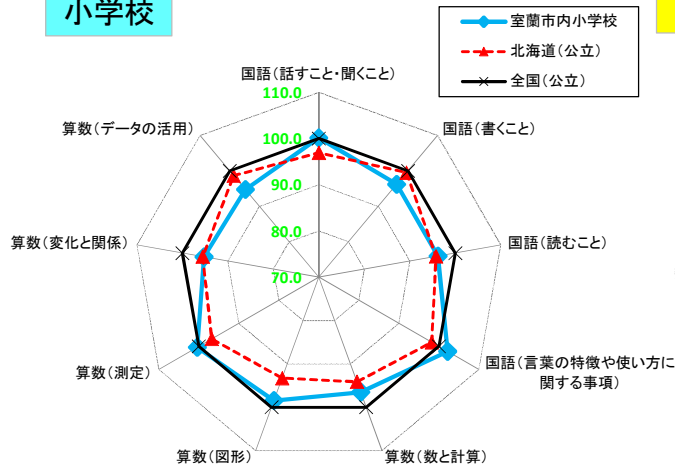
■室蘭市内の状況及び学力向上策（小学校数：9校、児童数：498人）（中学校数：7校、生徒数：505人）

【教科全体の状況】

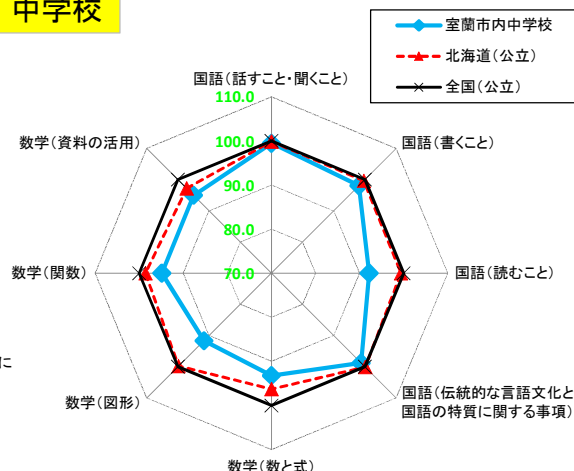
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	63
算数・数学	67	54

小学校

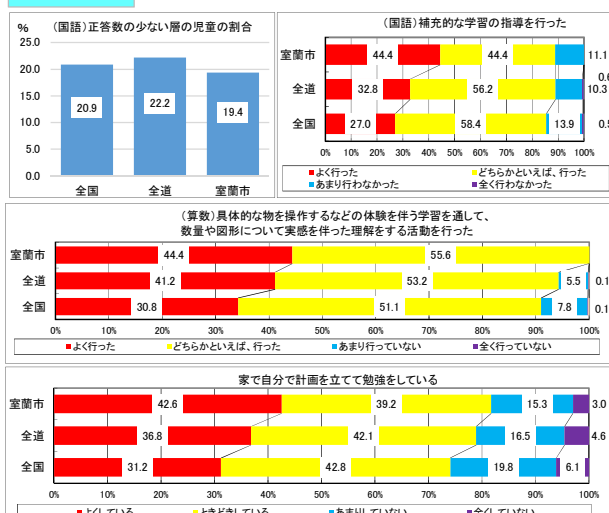


中学校

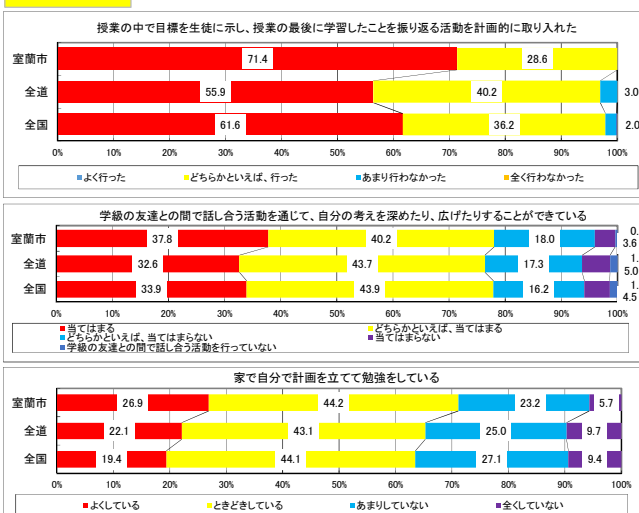


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、補充的な学習を行ったことにより、正答数の少ない児童の割合が全国を下回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、「測定」の領域で全国の平均正答率を上回るとともに、「数と計算」の領域及び「図形」の領域において、全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

市内の各小学校で、発達段階に応じた家庭学習を児童に提示するなどの取組を推進したことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業の中で目標を生徒に示し、授業の最後に学習した内容を振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

市内の各中学校で、発達段階に応じた家庭学習を生徒に提示するなどの取組を推進したことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【室蘭市の学力向上策】

- ◎ 市独自の「学力向上シート」に基づく検証改善サイクルの確立に向けた各学校の組織的な取組の推進
- ◎ 小中連携教育の充実による教員の指導力向上や学力向上に向けた取組の実施
- ◎ 市教育委員会が作成したICT端末活用に係る動画クリップを活用した授業改善の推進

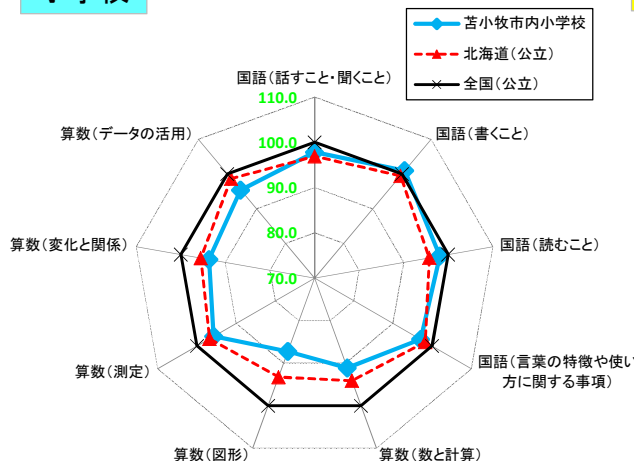
■ 苫小牧市内の状況及び学力向上策（小学校数:23校、児童数:1381人）（中学校数:15校、生徒数:1298人）

【教科全体の状況】

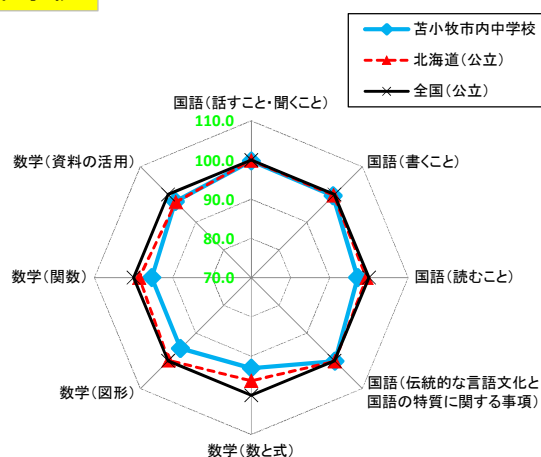
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	64
算数・数学	65	54

小学校

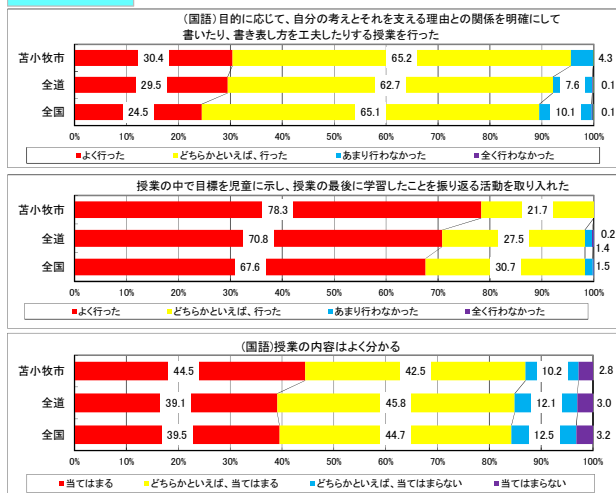


中学校

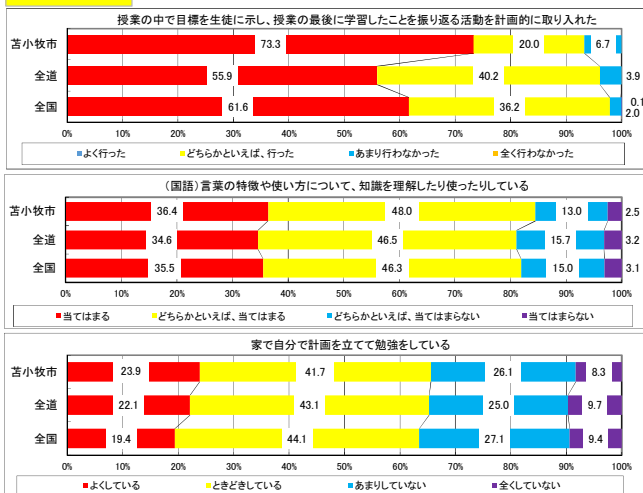


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、学習内容の理解につながり、「書くこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

市全体で、授業改善に向けた共通取組事項を徹底させたり、授業の中で目標を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れたことにより、国語の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

授業の中で目標を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、国語の授業において、言葉の特徴や使い方について知識を理解したり使ったりしている生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

市内の各中学校において、望ましい学習習慣の確立に向けた取組など小・中学校間の一貫・連携した指導を推進したことにより、家で自分で計画を立てて勉強している生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【苫小牧市の学力向上策】

- ◎ 苫小牧型小中連携教育「苫小牧オール9」による小・中学校間の一貫・連携した指導の推進
- ◎ 1人1台端末を活用した「主体的・対話的で深い学び」の推進
- ◎ 授業改善研究委員会による個別最適化された教育及び授業改善に向けた共通取組事項の徹底

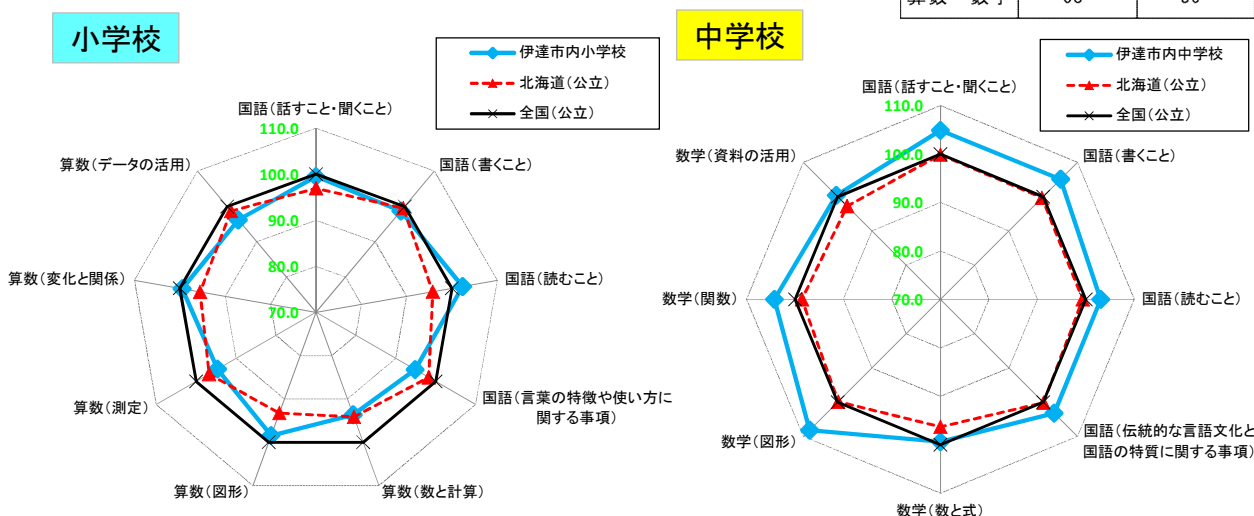
【教科全体の状況】

■伊達市内の状況及び学力向上策（小学校数:8校、児童数:242人）（中学校数:3校、生徒数:250人）

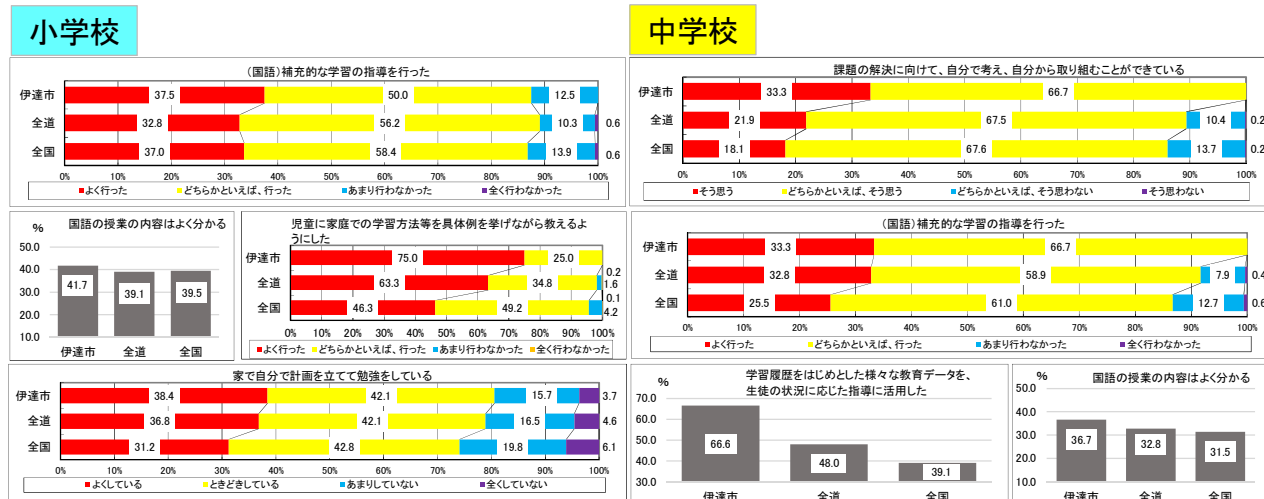
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	67
算数・数学	68	59



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、補充的な学習を行ったことにより、国語の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国を上回ったと考えられる。 市内の各小学校において、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。	市全体で、「伊達市学力テスト」等の結果を基にした授業改善を推進したことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる生徒が全国及び全道の割合を上回るとともに、国語及び数学の平均正答率が全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 国語の授業において、補充的な学習を行うとともに、学習履歴をはじめとした様々な教育データを、生徒の状況に応じた指導に活用したことにより、個に応じた指導の充実が図られ、国語の授業の内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【伊達市の学力向上策】

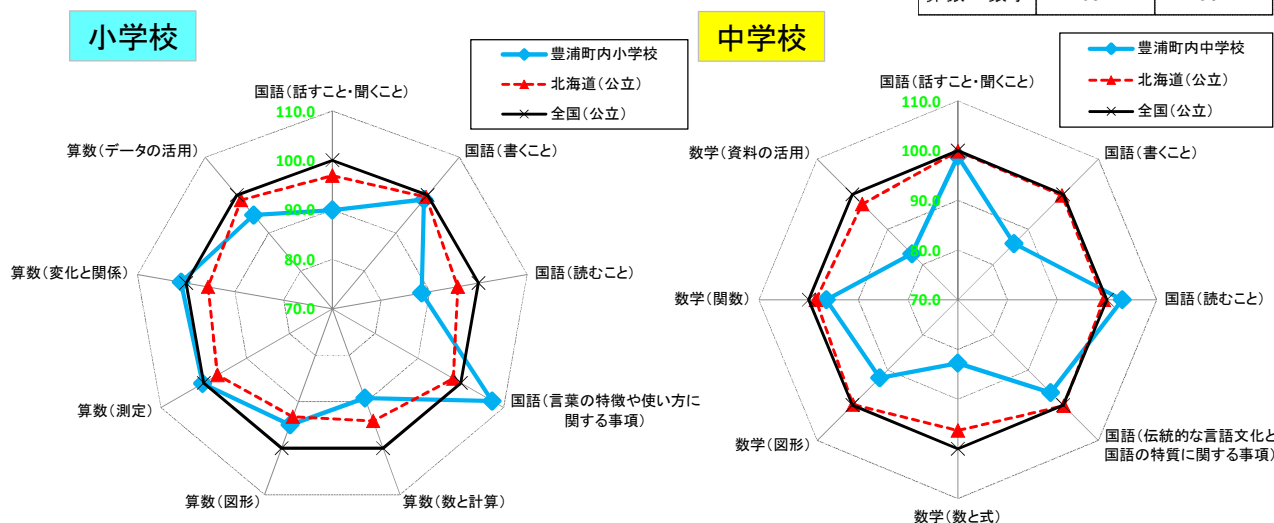
- ◎ 「伊達市学力テスト」等の結果を基にした授業改善の推進
- ◎ 指導内容の連続性や系統性を重視した小中連携の推進
- ◎ ICT機器や高速大容量の通信ネットワークを活用したオンライン学習の実施

■豊浦町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:20人）（中学校数:1校、生徒数:19人）

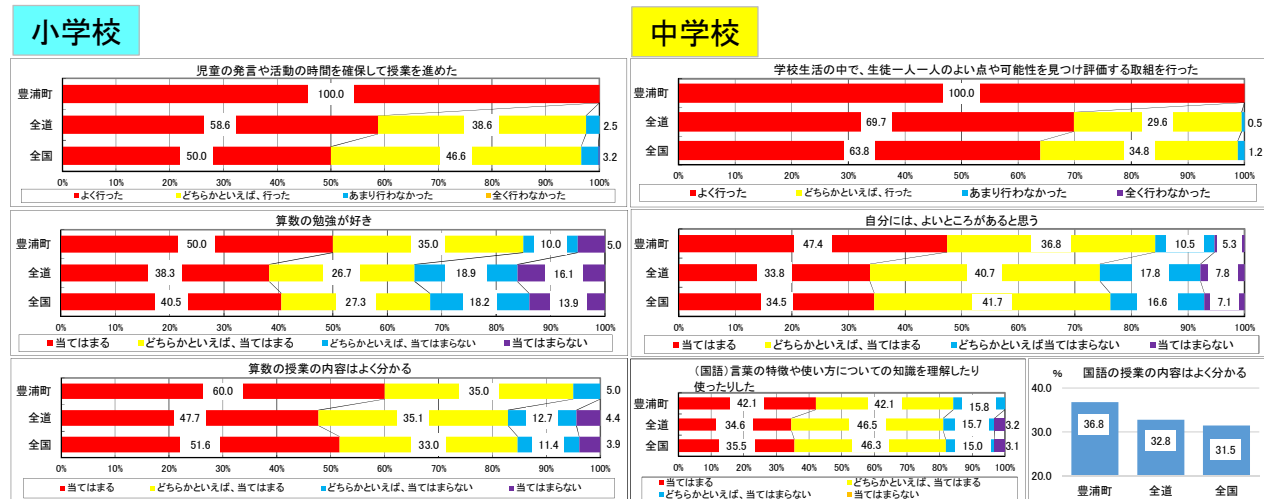
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	62
算数・数学	68	50



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めたことにより、学習内容の理解につながり、「図形」の領域で全道の平均正答率を上回るとともに、「測定」の領域、「変化と関係」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 学校力向上アドバイザーによる学校訪問等を活用し、町全体で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んだことにより、算数の勉強が好きな児童及び算数の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	町内の中学校において、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組を行ったことにより、自分には、よいところがあると思う割合が全国を上回ったと考えられる。 学校力向上アドバイザーによる学校訪問等を活用し、町全体で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んだことにより、国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりした生徒の割合が全国を上回るとともに、国語の授業の内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【豊浦町の学力向上策】

- ◎ 学校力向上アドバイザーによる学校訪問や校内研修における授業改善に係る指導助言
- ◎ 小中一貫教育の推進による確かな学力の育成と学習習慣の確立への取組の推進
- ◎ ICT機器を授業で有効に活用するための町主催の研修会の実施

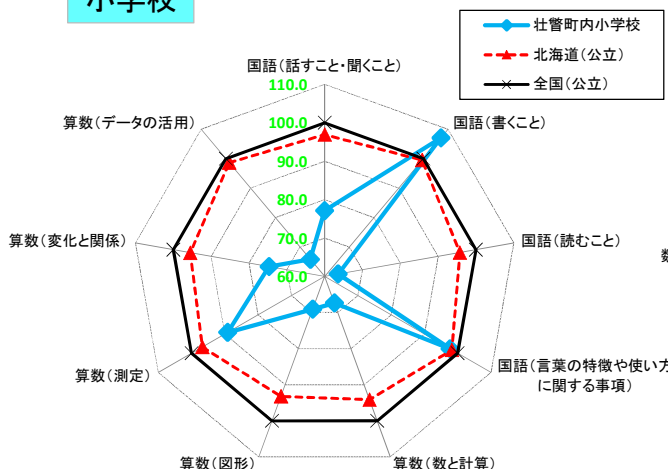
■ 壮瞥町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:10人）（中学校数:1校、生徒数:20人）

【教科全体の状況】

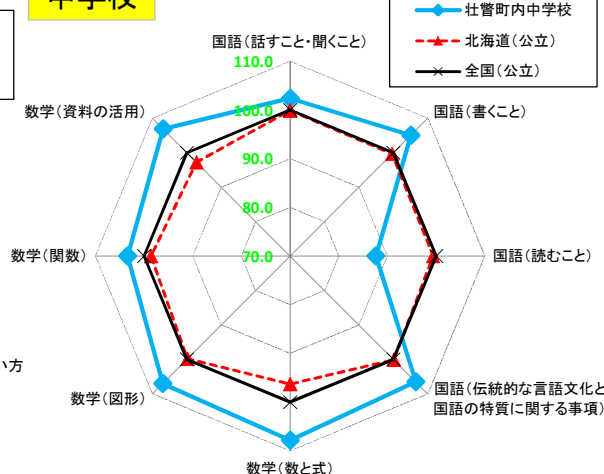
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	57	65
算数・数学	50	61

小学校

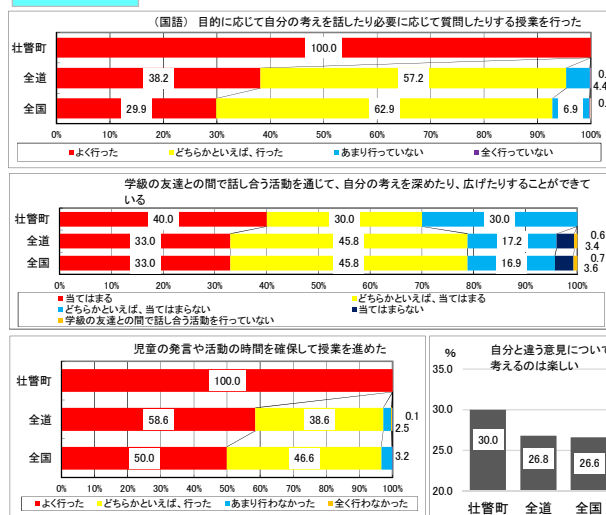


中学校

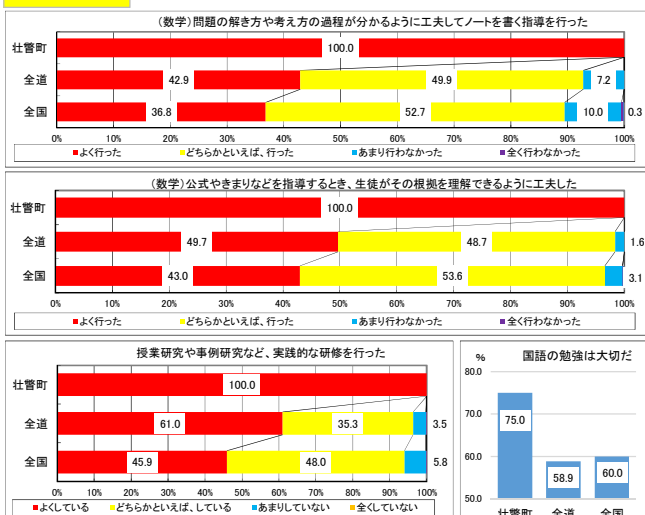


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めたことにより、自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったり、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したりしたことにより、学習内容の理解につながり、全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業研究や事例研究など、実践的な研修を行ったことにより、日常の授業改善が図られ、国語の勉強は大切だと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【壮瞥町の学力向上策】

- ◎ 各学校における客観的データに基づく課題の明確化及び改善に向けた取組の推進
- ◎ 町教育研究会における9年間を見通した目標や教育課程の編成による小中連携の充実
- ◎ 一人一台端末を活用した児童生徒の学習定着度に応じた学びの質の向上に向けた取組の推進

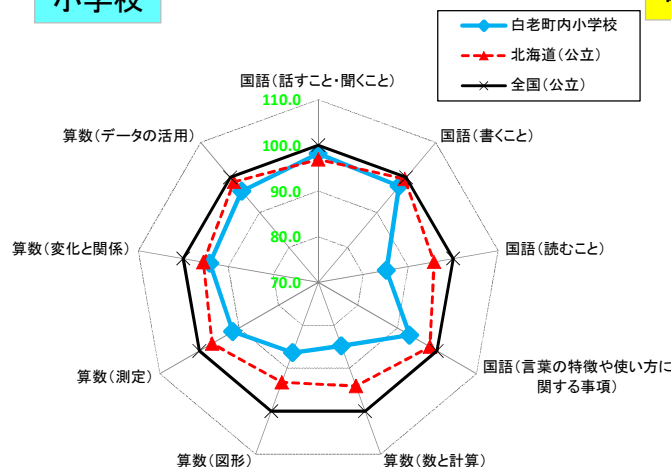
■白老町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:92人）（中学校数:2校、生徒数:84人）

【教科全体の状況】

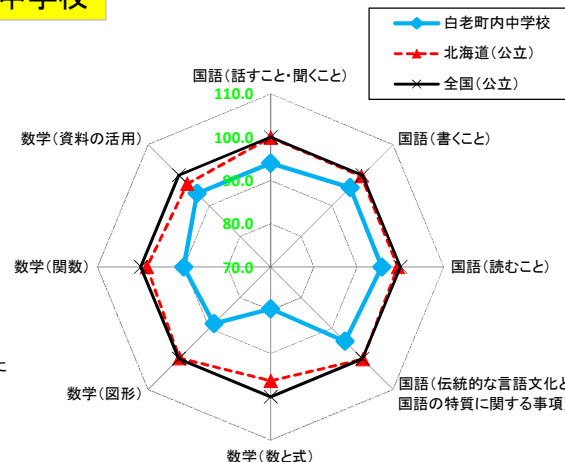
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	61
算数・数学	64	50

小学校

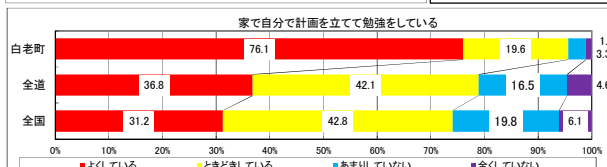
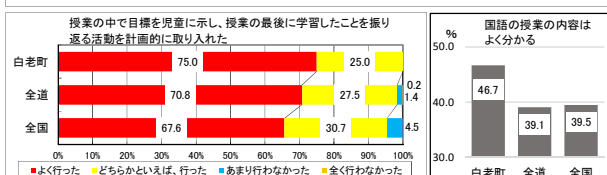
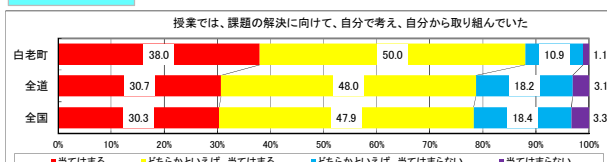


中学校

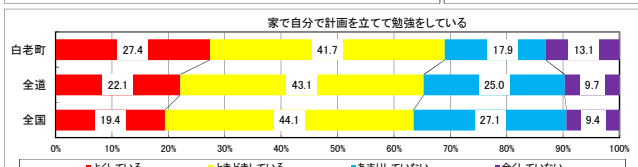
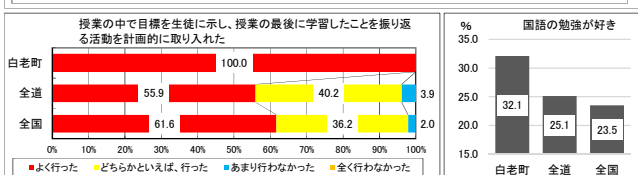
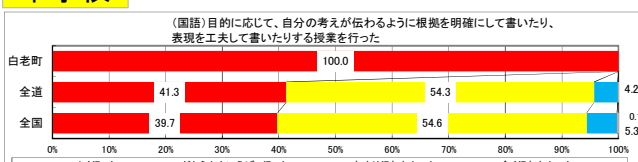


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町全体で、学力向上を目指す「白老町スタンダード」に基づく授業改善に取り組んだことにより、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町内の各小学校において、授業の中で目標を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、国語の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

家庭学習の手引を作成し、保護者と家庭学習の在り方について共通理解を深めたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

町内の全ての中学校において、国語の授業で目的に応じて自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったり、授業の中で目標を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、国語の勉強が好きな生徒が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。

家庭学習の手引を作成し、保護者と家庭学習の在り方について共通理解を深めたことにより、家で自分で計画を立てて勉強している生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【白老町の学力向上策】

- ◎ 「白老町スタンダード」を基軸にした確かな学力の定着を図る取組の推進
- ◎ 義務教育9年間の切れ目のない学びの実現による小中連携、小中一貫教育の推進
- ◎ 小規模校における遠隔授業の実施等、ICT端末を活用した取組の推進

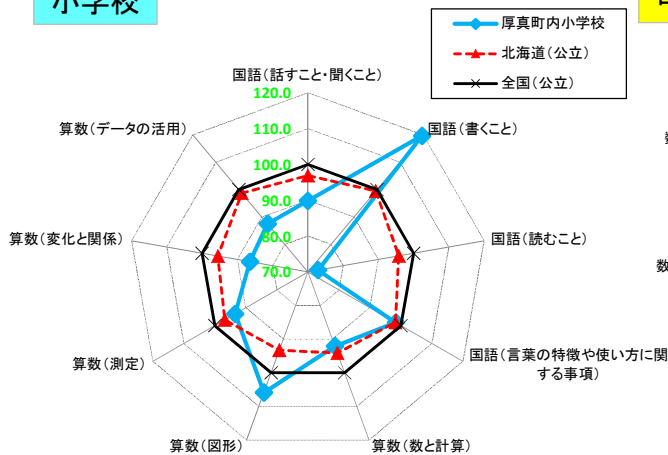
■厚真町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:31人）（中学校数:2校、生徒数:47人）

【教科全体の状況】

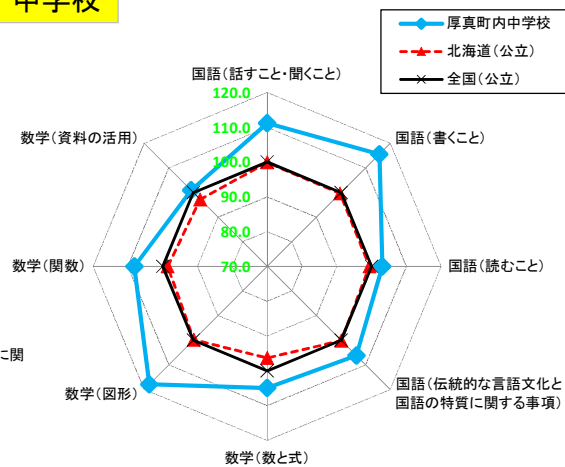
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	70
算数・数学	64	61

小学校

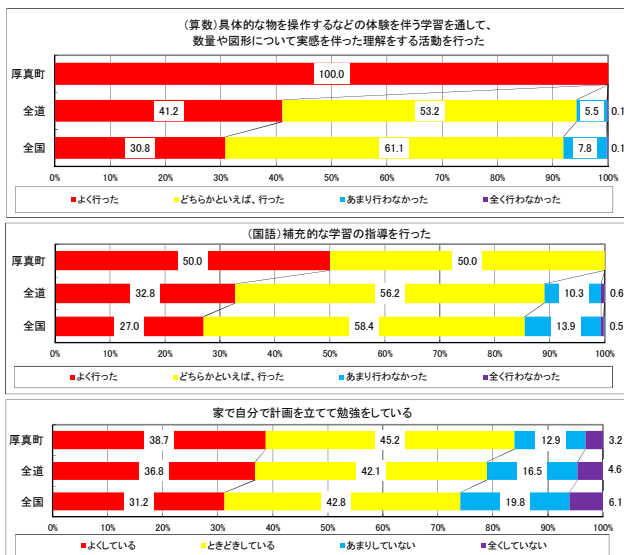


中学校

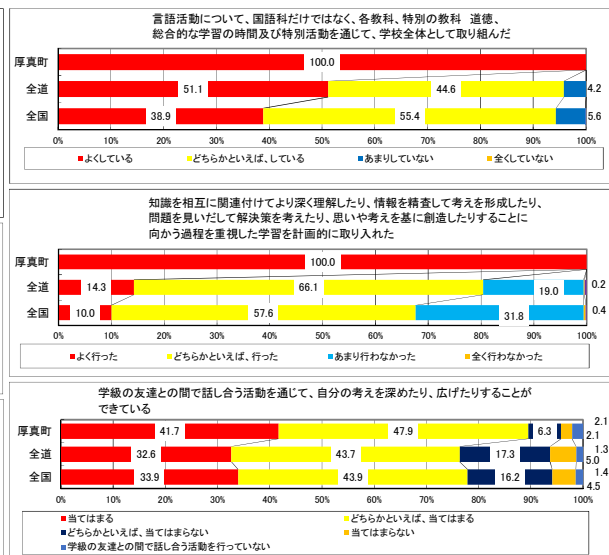


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、学習内容の理解につながり、「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

町内の各小学校において、国語の授業で、補充的な学習を行ったことにより、学習内容の理解につながり、「書くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業の方法を「厚真町スタイル」として確立し、授業の進め方について全教職員が共通理解のもと授業づくりを進めるとともに、家庭学習の手引きを作成し、家庭の学習の進め方を丁寧に指導することにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、学習内容の定着につながり、国語及び数学の全ての領域等で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

町内の全ての中学校において、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を計画的に取り入れたことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【厚真町の学力向上策】

- ◎ 児童生徒の学習課題解決に向けた学校改善プランの実践と検証
- ◎ 「厚真の未来を語る子」の育成に向けた小中一貫教育の推進
- ◎ 厚真町教育研究所学習部会を中心としたICT機器を効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

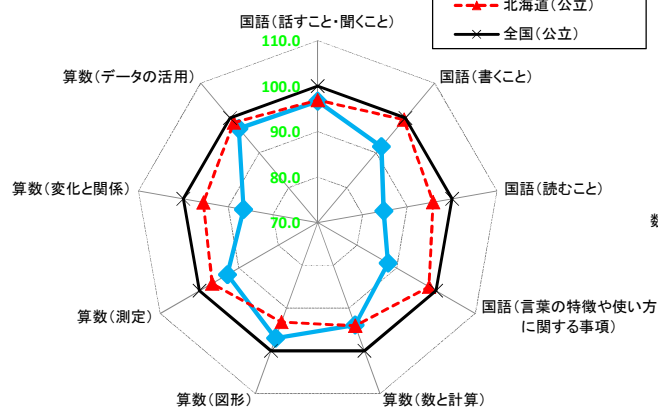
■洞爺湖町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:35人）（中学校数:2校、生徒数:55人）

【教科全体の状況】

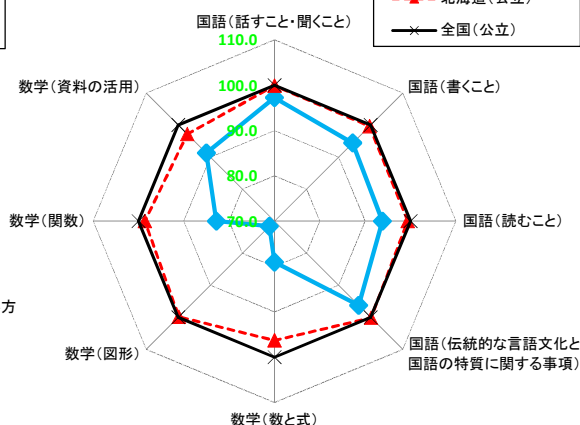
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	58	62
算数・数学	66	46

小学校

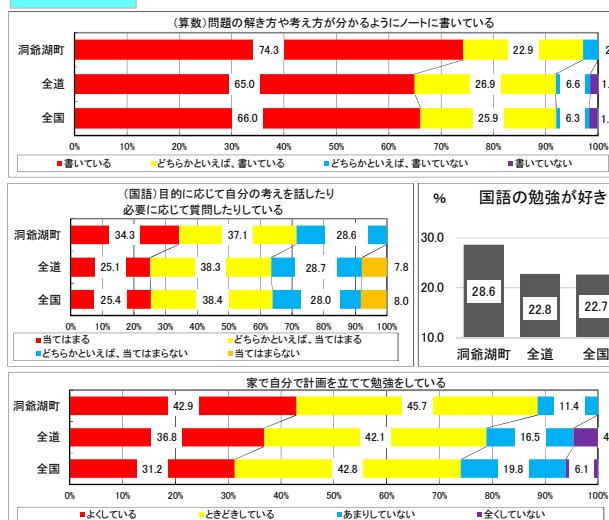


中学校

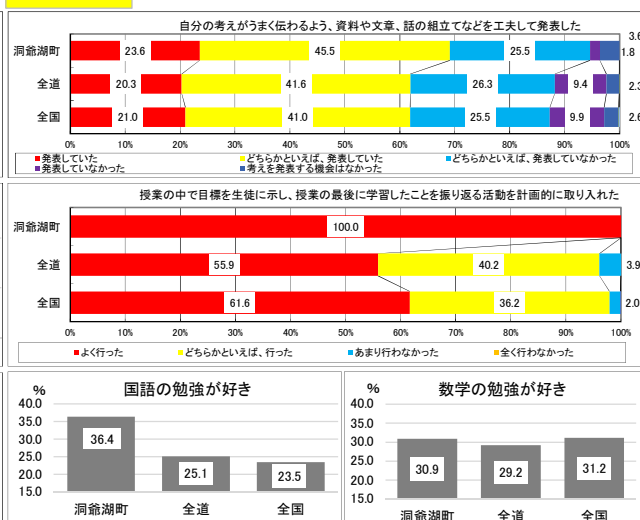


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町全体で、ノートの取り方などの授業規律に係る統一した取組を行うことにより、算数において、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

町全体で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んだことにより、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている児童の割合及び国語の勉強が好きな児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

家庭学習の手引きを作成し、保護者と家庭学習の在り方について共通理解を深めたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

町全体で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んだことにより、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

町内の全ての学校において、授業の中で目標を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、国語の勉強が好きな生徒が全国及び全道の割合を上回るとともに、数学の勉強が好きな生徒が全道の割合を上回ったと考えられる。

【洞爺湖町の学力向上策】

- ◎ 授業改善の視点や家庭学習の充実等に向けた取組を示した学力向上指標「スタンダード5」による町内共通の取組の徹底
- ◎ 学力向上に係る先進的事例の収集及び授業改善研修の推進
- ◎ 町教育委員会による全国学力・学習状況調査結果の分析と各校の取組へのアドバイス

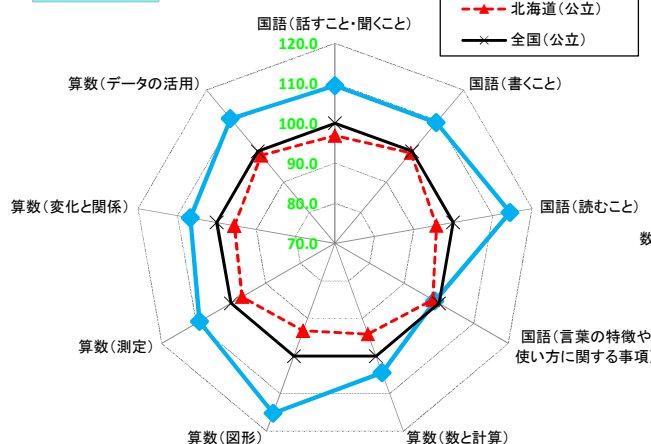
■安平町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:58人）（中学校数:2校、生徒数:47人）

【教科全体の状況】

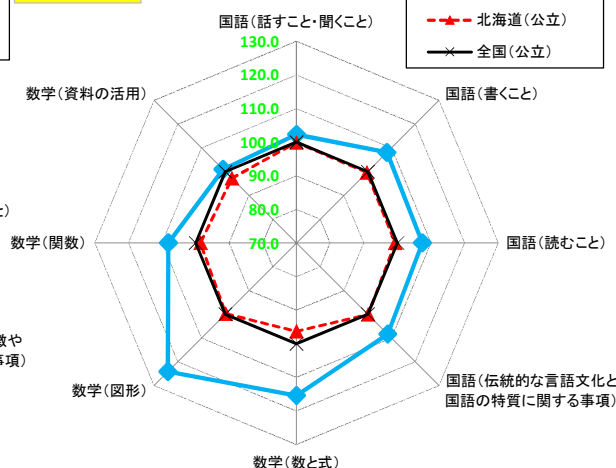
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	69
算数・数学	76	64

小学校

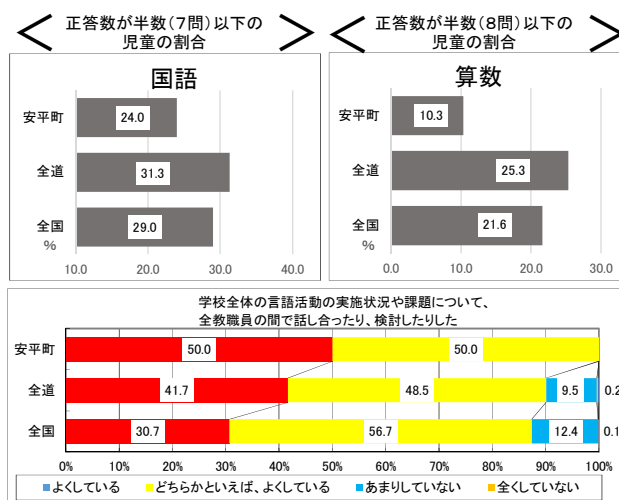


中学校

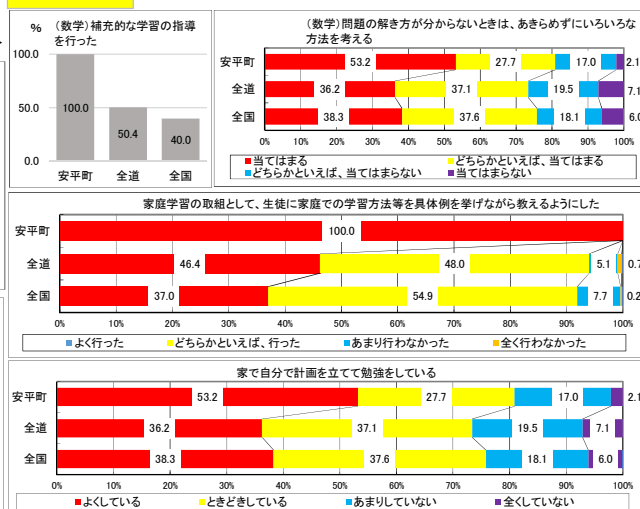


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町内の各小学校において、学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしたことにより、国語及び算数の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で、「安平町ハンドブック」の活用による授業改善を推進したことにより、国語の正答数が半数以下の児童の割合が全国を下回るとともに、「話すこと・聞くこと」の領域、「書くこと」の領域及び「読むこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。また、算数の正答数が半数以下の児童の割合が、全国を下回るとともに、全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

町内の全ての中学校において、数学の授業で補足的な学習を行ったことにより、数学の授業において、問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える生徒の割合が全国を上回るとともに、学習内容の理解につながり、全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

町内の全ての中学校において、家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【安平町の学力向上策】

- ◎ 「安平町ハンドブック」の活用による授業改善の推進
- ◎ 中学校教員による乗り入れ授業及び小小連携による小中一貫教育の推進
- ◎ ICT機器やデジタル教材の効果的な活用促進を図る町主催の研修会の実施

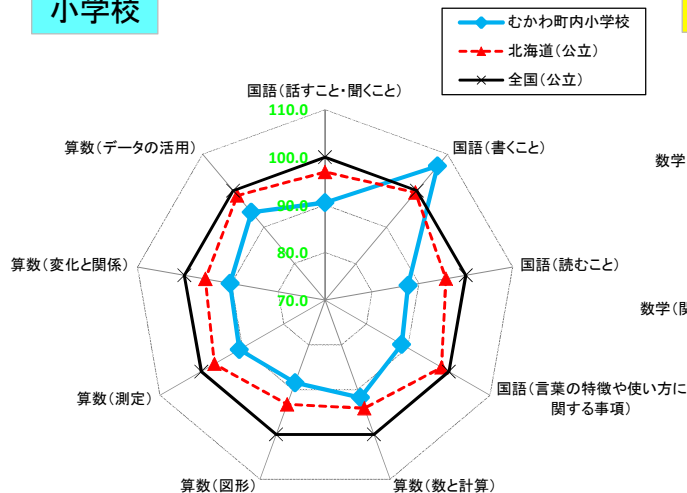
■むかわ町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:54人）（中学校数:2校、生徒数:46人）

【教科全体の状況】

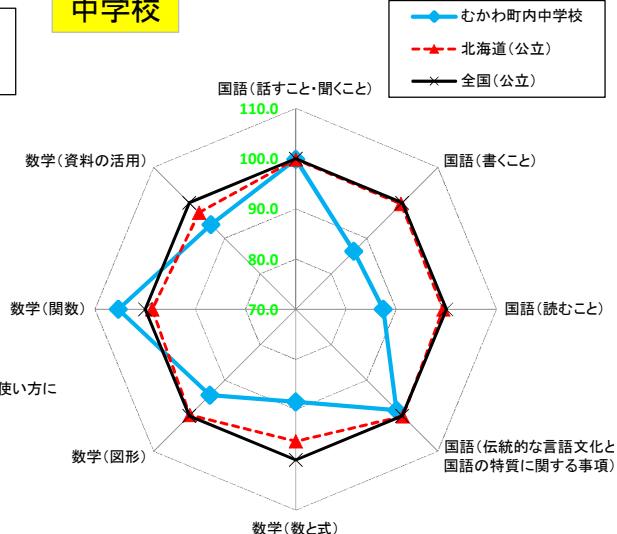
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	61
算数・数学	64	54

小学校

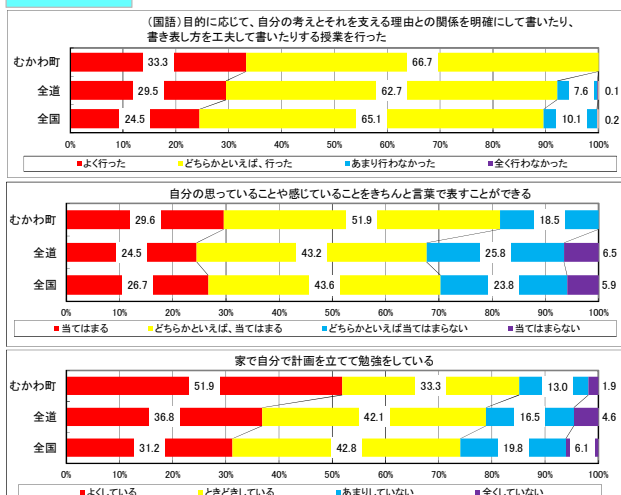


中学校

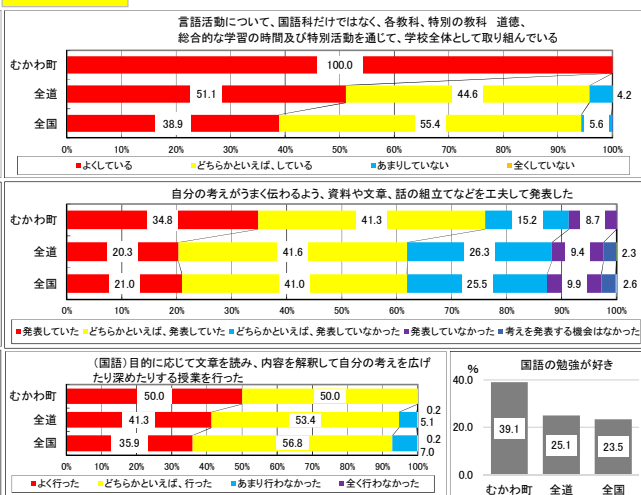


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、「書くこと」の領域で全国の平均正答率を上回るとともに、自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

家庭学習の手引きを活用し、保護者と家庭学習の在り方について共通理解を深めたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

町内の全ての中学校において、言語活動について、国語科だけでなく、各教科、特別の教科「道徳」、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組むことにより、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

国語の授業において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、国語の勉強が好きな生徒が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。

【むかわ町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校及び高等学校が連携したふるさと教育「むかわ学」の実施
- ◎ 「家庭学習の手引き」の活用及び「生活実態調査」による家庭と連携した家庭学習習慣の定着と内容の充実
- ◎ 小学校第1学年からの標準学力検査実施とその結果分析による検証改善サイクルの確立